

平和新聞

2025年
7月27日
第1号
発行

突然
のお別れ



戦後80年を

ふり返^って

昭和20年6月10日千葉県
新町、富士見町に交通
機関を断つため千葉駅を
目標に爆弾が落とされた。
その語るのは千葉空襲
体験者の高山さんだ。
当時小学二年生だった高山さ
んはそのとき朝食をとて
いたそうだった。敬言戒厳報が
鳴るまでに空襲警報が
鳴り出し小学生の3点セット
であるランドセル防空頭
巾救急袋を持って防空ご
うへ行こうとくつをはきとい
いると爆弾が落とされたそ
うだ。高山さんは爆弾が爆発

すると同時に、目と鼻と耳をふさぎ、なるべく低い位置にたよる。ふせをして、いたそうた。爆弾が落ち、これたのは、山さんの自宅の近くで、防空ごうがある穴、そこには、ろつも落ち、そこ、これた。そして、その爆弾で、なり組のいしに、学校していた多くの友だちが、ぎせいになつて、また、そうた。たとへば、ある友だちは、おなか、に破へんが、さきで、亡くなり、ちがう友だちは、

2度にわたった

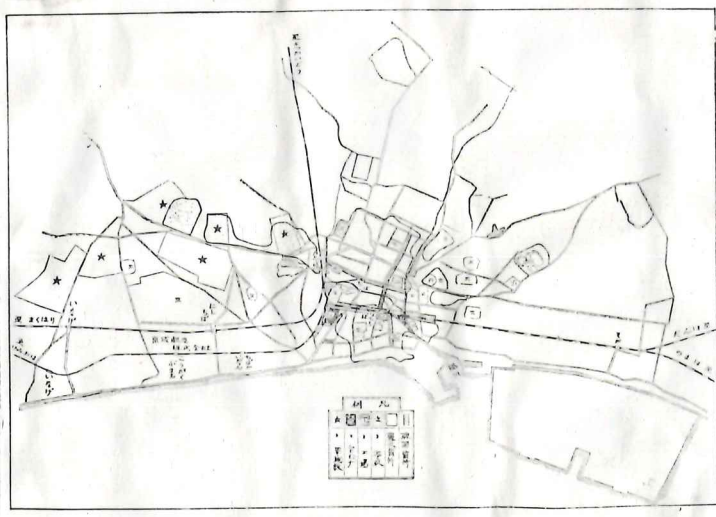
千葉空龍

昭和20年には2度わた
リ千葉を空襲龍衣がおこ
した。
1度目は6月10日。天気
は曇り朝に爆弾が投下さ
れた。2機から4羽1目標
にむけて1382機云々
機云々
ネチ母木工場に對す
る攻撃手だ。た。

昭和 20.6.10
爆弾
死者 391名
罹災数 415戸

昭和 20.7.7
爆弾
死者 1204名
罹災数 8489戸

2度目は7月7日午前
39分から3時5分までの間
129機から焼夷弾8805トネ
無差別に投下され



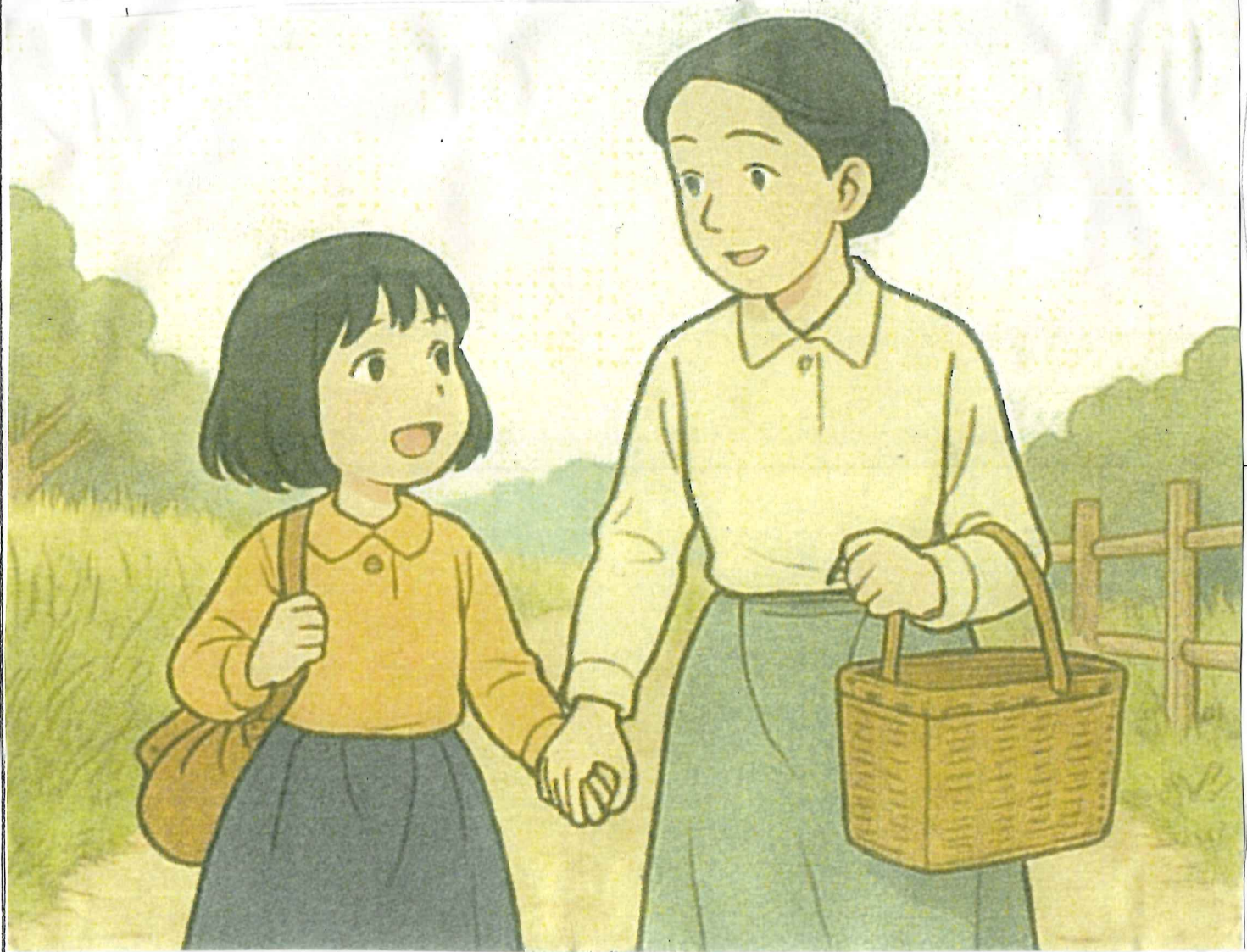
5-24図 千葉市罹災時の現況

中ノ市街地は火の海と化した。高山さんは人間が傷つきた命を落すと光景がさねられたい。戦争は二度とくり返してはならない。何もう良いことは無いと力をこめた。



たただでさえ物が不足していた軍
中、空襲により住む家も焼かれ
土のくさしはさらに大変なこ
二軍争中の子供たちの服

家族を引きこむ戦争
アニメーション物語



戦争に反対した
お父さんも戦地に

戦争に反対し家族
を大切にしたい黒柳
徹子さんの父・守綱さ
んにも赤紙がきて自
分の意思で関係なく
兵隊にとられ家族
とはなれはなれにく
さを感じるゐなかつた。

※赤紙とは、ようし、さう
のこととわいたく軍隊に
いられなければならなかつた。

穴工龍衣で焼かれた

住みか

穴工龍衣により里柳徹
予さんの家も焼かれて
しまった人間にとって大切
な家(住まい)が無くなった
しまふことはとてもつらい出
来事、戦地だけではな
く人間どつしのみにく
い争いは平和な人々のく
らしたをノシゅんにしてう
ばいさつた。



手に入らない薬
弟の死

戦争中に重い病にお
かされた里山柳徹子さん
の弟は、言葉が身に入ら
ず命を落とすこととなつた。
人になつてゐたが平和な
時代に生かされてゐる私に
は想像するにも難しい。
病院やドラッグストアが身
近にある今の時代をどう
田代三枝子さん

戦時下の
不自由な

くらし

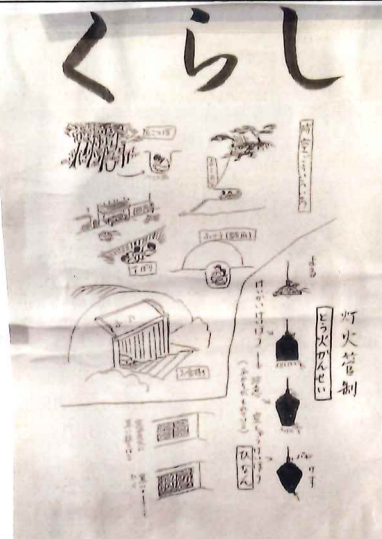


○ 配給制度

物があつたのに不足
といふ戦争中は自
に物を買ふことが
出来なかつたため配給
度によつて口に物次目
配られた。

ホルネのランドゼ

當年中は物が不足し
 いたため、うでセルは
 ボール紙で作られた
 雨にぬれた重い物を
 入れるとすぐにこわれ
 しました。それが元氣



戦時下の生活

くらし

くさじおたちは学校に
た。の
スフで作られた洋服
私は、日本の歴史をい
本を讀むむなかで戦時
の洋服が「スフ」とい
材で作られていたこと
知りました。物がそあ
な素材で作られた洋服
は一度着るとボロボロ
た。てしきたんてす。